

たか？」

患者「はい、自分で塗っていました」

医師「背中も自分で？」

患者「はい、鏡をみながら塗っています」

背中の外用は、自分では塗っているつもりでも、意外ときちんと塗れていないことが多いものです。このような場合には、ぜひ家族の誰かに外用してもらうようにお話しすると良いと考えられます。ほかの人に外用してもらうだけで、背部の皮疹が改善することを、筆者はしばしば経験します。問題になるのは一人暮らしの患者の場合です。このような時に筆者が重宝しているのが、軟膏ぬりちゃん(旭電機化成)です。孫の手のようなものですが、先端に薬をつけて外用してもらうと、かなり外用効果があるようです。1,080円の実費で購入していただいています。患者の評判もなかなか良いようです。皮膚症状の改善が思わしくないときには、すぐに薬剤の変更を考えるのではなく、外用状況を確認してみることも大切なことであると考えています。

酸化亜鉛製剤の効用

佐藤守弘

(福島市・南福島さとう皮膚科)

酸化亜鉛製剤[亜鉛華(単)軟膏、サトウザルベ]はその歴史が長く、改めて記述するような薬剤ではないが、印象に残った使用経験を紹介する。

①難治性皮膚潰瘍

他剤で難治の皮膚潰瘍に著効することがある。とくに高齢者で有効例が多い印象があり、二次感染に注意すれば潰瘍治療に困ったときの選択肢になる。

症例：高齢、男性。形成外科で施行された植皮術の分層採皮創が1か月以上皮膚潰瘍の状態、各種皮膚潰瘍治療薬、創傷被覆材に治療抵抗性であるとして紹介受診した。亜鉛華単軟膏を貼付したところ約1週で速やかに完全表皮化した。

②一部が膿疱化した乾癬

乾癬患者では、ときに一部の皮疹が膿疱化することがある。全身性の場合はエトレチナートなどの全身療法が優先されるが、狭い範囲で膿疱化したヒリヒリ痛い皮疹に酸化亜鉛製剤を単純塗布すると比較的速やかに軽快することがある。

③炎症のある伝染性軟属腫

軟属腫に炎症が併発することはよく経験する。自然消褪かもしれないが、酸化亜鉛製剤を単純塗布していると比較的速やかに消褪する例がある。難治例も多いが、除去できない症例で炎症がある場合には治療選択肢の1つになる。

混合外用薬とその使用方法

澤田俊道

(水戸市・沢田医院)

私が編集部に出したハガキがきっかけでこの企画ができたとのことで、原稿依頼を受けて、断ることができず書いています。

多くの混合外用薬を使っていますが、そのうち2つのものを紹介します。すべて等量混合です。

①OGZ

日本臨床皮膚科医会雑誌で知ったのですが、多くの先生方も使っていると思います。調剤薬局につくらせたらぶつぶつができてしまうとのことで、東京通信病院薬剤部の大谷道輝先生にご指導を受けて、つくりました。グリメサゾン軟膏と亜鉛華単軟膏の混合で、臭気があります。明治生まれの父親も皮膚科医だったので、グリテールの臭いで育った私には郷愁さえ感じるニオイなのですが、患者さんにとってはヒドイ臭いようで、効果があるし夜だけなので使ってくださいと処方すると、ドロップアウトする人はほとんどいません。

江藤隆史先生(東京通信病院)が書いているように、乳幼児、重症皮疹、褥瘡に有用ですが私は特に手部湿疹に使っています。昼間、手を洗うたびにダイアコート軟膏を塗布してもらい、夜はダイアコート軟膏の上にOGZを厚く塗ってもらい、綿